

絵本の紹介

<絵本の紹介>

セラピーの時によく扱っている絵本を目的別に一部ご紹介します。ほかにも類似した絵本はたくさんあります。お子さんと一緒に図書館や本屋さんに行ってお気に入りの絵本をさがしてみてください。

セラピーの時は、指人形や小物を用意すること多いですが、絵本だけでも十分楽しめます。字のとおり読むことにこだわらず、会話を楽しみながら「毎日1冊以上、楽しく一緒に絵本を読む！」ということを目指してみてもいいがですか？

【あいさつを意識できる絵本】

- 「いいおかおシリーズ：いただきます」「いいおかおシリーズ：こんにちは」
いもようこ

→生活でよく使うあいさつを繰り返し聴かせることができます。

- 「なんていうのかな？」

→場面に合わせたあいさつをいろいろ扱うことができます。あいさつが既に行っているお子さんには「こんな時、何て言うの？」という問いかけをして考えさせることもできます。

【5W1Hの質問を意識できる絵本】

- 「だ、だ、だれのおべんとう」（誰の？）

→動物達がいろいろなお弁当を持っておでかけします。誰のお弁当か考えてみましょう。

- 「くまさんシリーズ：いただきます」（どうやって？）

わたなべしげお文 おおともやすお絵

→くまさんが間違えた食べ方をしています。「どうやって食べればいい？」「手で食べる」「スプーンで食べる」などお話ししてみましょう。

- 「どうやってねるのかな？」（どうやって？） やぶうちまさゆき

→動物達がいろいろな寝方をしています。「どうやって寝るの？」「ぶら下がって寝る」「片足で立って寝る」などお話ししてみましょう。

- 「きんぎょがにげた」（どこ？） 五味太郎

→金魚があちこちに隠れてしまいます。「どこー？」「みつけた」とかくれんぼのように楽しみましょう。

【動詞を意識できる絵本】

- 「くまさんシリーズ：どうすればいいのかな？」（はく・着る・かぶる）

わたなべしげお文 おおともやすお絵

→くまさんが間違えた洋服の着方をしています。「ズボンは履くんだよ」「△はかぶるんだよ」のようにくまさんに教えてあげましょう。

【形容詞を意識できる絵本】

- 「かささしたげるね」（大きい・中くらい・小さい・長い・冷たい）

はせがわせつこ文 にしまきかやこ絵

→動物達がいろいろなかさをさしています。どんなかさかお話ししてみましょう。雨の音もいろいろです。雨の音も楽しみましょう。

【位置の言葉を意識した絵本】

- うしろにいるのだあれ？（前・後ろ・上・下） ふくだとしお

→動物達の前後、上下には誰かがいます。動物の一部が見えるので誰か考えながら位置の言葉を楽しみましょう。

【呼びかけを誘える絵本】

- 「大きなかぶ（はじめてのめいさくしかけえほん）」 とりごえまり

→「おばあさん、てつだって」「ねこさん、てつだって」のようにぬいぐるみなどを使いながら、子どもにぬいぐるみを呼ばせることができます。初期には動物の擬声語を聴かせることもできます。

- 「てぶくろ（はじめてのめいさくしかけえほん）」 あおきひろえ

→「さむい、さむい、（てぶくろに）いれて」と繰り返し聴かせたり、動物のぬいぐるみを出すときに子どもにぬいぐるみを呼ばせることができます。

【音を意識して聴かせられる絵本（乳児用）】

- 「ノンタンおしっこシーシーシー」（「し」の音） 大友幸子 キヨノサチコ

- 「いいおかお」（母音・「ぷ」「し」） いもとようこ

- 「そーっとそーっと」（しー）

→人工内耳の初期には「し」を繰り返し聴かせられる本を選んでいきます。

【発音・聴覚記憶を目的とした絵本（年中以上）】

- 「どうぶつはやくちあいうえお」 きしだえりこ文 かたやま けん絵

- 「あいうえおうさま」 寺村 輝夫、和歌山 静子、杉浦 範茂

- 「ぐりとぐらのあいうえお」 中川 李枝子文 山脇 百合子絵

→文の聴覚記憶や発音に気を付けて言うことを促せます。

【リズムと発音を目的とした絵本（年中以上）】

- 「へへのももへじ」 高梨章文 林明子絵
- 「ノントンにんにんにここにこ」 大友幸子

→リズムを楽しみながら、細かな音の聴きとりを促せます。

【読み始めの初期に扱える絵本】

- 「たべたのだあれ？」 五味太郎
- 「かくしたのだあれ？」 五味太郎

→文が繰り返しなので、「読んでいるつもり」を楽しめます。また出てくる物に合わせて数詞を意識して聴かせられます。

【季節関連の絵本】

- 「あけましておめでとう」 中川ひろたか文 村上康成絵
- 「クリスマスはドキドキ」 きむらゆういち文 ふゆのいちこ絵

→季節に関連する絵本はたくさんあります。図書館などで借りて季節に合わせて読んであげましょう。

